

教育研究業績

2026年5月1日

氏名 影山優子

研究分野	学位
高齢者福祉、高齢者介護、福祉人材育成、	博士（社会福祉学）

研究のキーワード

高齢者施設、認知症ケア、介護、介護人材の育成・養成

主な社会教育活動

平成25年4月～ 東京商工会議所 検定試験委員
 平成28年7月～□狭山市地域包括支援センター運営協議会委員、地域密着型サービス運営委員会委員
 令和2年11月～□東京都 社会福祉施設整備費補助金対象法人審査委員会委員
 令和3年8月～□ 狭山市協働推進協議会委員
 令和4年4月～ 狭山市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員
 令和4年7月～□ 日本認知症ケア学会査読委員
 平成5年6月～□ 埼玉県日高特別支援学校学校運営協議会委員
 令和5年5月～□ 川越市社会福祉審議会（児童福祉専門分科会）委員
 令和5年5月～□ 西武文理大学看護学部研究倫理委員会 外部委員
 令和6年7月～ 狭山市社会福祉審議会委員

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例	2018年4月～	長野県富士見町及び山形村社会福祉協議会との「地域福祉インターンシッププログラム」の共同開発
2 作成した教科書、教材		
1) ケアワーカーキャリアケースブック 平成23年度老人保健事業推進費等補助金老人保健健康推進等事業による研究報告書	2011年3月	介護の現場において10年程度のキャリアを持つ介護職員6人にヒアリングし仕事のやりがい等をまとめた。介護職員向け教育研修等で活用。
2) ケアワーカーキャリアケースブック2011 平成24年度老人保健事業推進費等補助金老人保健健康推進等事業による研究報告書	2012年3月	昨年度の続編として、介護の現場において20年程度のキャリアを持つ介護職員8名にヒアリングし仕事のやりがい等をまとめた。介護職員向け教育研修等で活用。
3) 老人福祉千夜一夜物語ー社会福祉法人経営のあしたを拓く6人のオーラルヒストリーー 平成24年度厚生労働省社会福祉推進事業「社会福祉法人の革新を担う経営者に関する研	2013年3月	社会福祉法人経営において先駆的な取り組みをしている法人経営者のオーラルヒストリーをまとめ、歴史から今後の法人経営のあり方を探索した。社会福祉法人管理者経営者用教材。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
5 その他		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1 資格、免許		
社会福祉士	1998年4月	国家資格
社会教育主事	1998年3月	社会教育を行う者に対する専門的技術的な助言・指導を行う
認知症サポーターキャラバンメイト	2017年10月	地域で暮らす認知症の人やその家族を応援する「認知症サポーター」をつくる「認知症サポーター養成講座」の講師
精神保健福祉士	2019年4月	国家資格
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
社会福祉関係職員・関係者研修、職能団体等、地域における講師コーディネーターなど	2007年9月 2007年10月 2007年11月	社会福祉法人後志報恩会 法人内管理職研修講師 社会福祉法人後志報恩会 法人全体研修講師 神奈川県社会福祉事業団 介護職員研修講師

2008年2月	全国保育協議会 第34回全国保育史研究会「実践研究の進め方」
2008年5月	山口県ひとつくり財団主催平成20年度児童・障害者(児)福祉施設中堅職員研修
2008年8月	認知症介護研修・研究仙台センター 管理者研修講
2008年8月	第3回介護サービス経営研究会 講師
2008年12月	長野県社会福祉協議会主催 高齢者リーダー研修講
2008年12月	社会福祉法人 長岡三古福祉会 法人研修講師
2009年3月	長野県施設ケアマネ研修会 講師
2009年7月	全国老人保健施設大会 ランチョンセミナー講師
2009年8月	社会福祉法人 松塩筑木曾老人福祉施設組合 職員
2009年11月	狭山市 介護事業者連絡会 職員研修講師
2010年2月	社会福祉法人松塩筑木曾老人福祉施設組合職員研修会講師
2010年2月	群馬県介護福祉士研修会 講師
2010年9月	群馬県介護福祉士研修会 講師
2010年10月	狭山市 介護事業者連絡会 職員研修講師
2010年12月	社会福祉法人真光会 リバーパレス青梅職員研修会講師
2010年12月～ 2011年2月	社団法人全国有料老人ホーム協会職員研修講師
2011年5月	バーパレス青梅職員研修会講師
2011年7月	特別養護老人ホームさくら職員研修講師 特別養護老人ホームジョアン宮地の里職員研修講師
2011年8月	社団法人全国有料老人ホーム協会職員研修講師
2011年9月	長野県社会福祉協議会施設管理者研修講師 群馬県介護福祉士研修会 講師
2011年10月	狭山ケアセンター職員研修会 講師
2011年11月	日高市社会福祉協議会介護者家族の会勉強会講師
2011年12月	特別養護老人ホームジョアン宮地の里職員研修講師 狭山ケアセンター職員研修会 講師
2012年1月	特別養護老人ホームジョアン宮地の里職員研修講師
2012年2月	特別養護老人ホームさくら職員研修講師 特別養護老人ホームジョアン宮地の里職員研修講師
2012年3月	長野県内5社協合同研修講師
2012年6月	狭山ケアセンター職員研修会 講師
2012年10月	長野県5社協研修会 講師
2012年12月	狭山市市民後見人養成講座 講師
2013年1月	狭山市アライブ狭山 講演
2013年3月	長野県5社協研修会 講師
2013年10月	認定介護福祉士モデル研修 講師
2013年11月	やのくち正吉苑 家族会 講師
2014年9月	長野県5社協研修 講師
2014年10月	埼玉県西部福祉事務所主催介護予防事業研修 講師
2014年12月	やのくち正吉苑 家族会 講師
2015年2月	埼玉県介護職員研修 講師
2015年3月	熊本県認知症介護人材育成研修会 講師
2015年5月	さやま市民大学 講師
2016年2月	やのくち正吉苑 職員研修 講師
2016年5月	狭山市民大学 講師
2016年7月	長野県原村社会福祉協議会研修講師
2016年12月	狭山市社協議会ボランティアフェスタコーディネー
2017年2月	埼玉県老協リーダーシップ研修
2017年4月	狭山市民大学 講師
2017年9月	狭山市民大学 講師
2018年1月	埼玉県社会福祉協議会介護職員向け研修 講師
2018年2月	世田谷区福祉人材センター介護リーダー研修 講師
2018年5月	狭山市民大学講師
2018年11月	世田谷区福祉人材センター介護リーダー研修 講師
2019年7月	世田谷区福祉人材センター介護リーダー研修 講師
2022年12月	所沢市要約筆記者養成講習会 講師
2023年6月	株式会社やさしい手新入職員研修 講師
2023年2月	全国社会福祉協議会 社会福祉主事資格認定通信課
2023年3月	全国社会福祉協議会 社会福祉主事資格認定通信課
2024年度(全5回)	全国社会福祉協議会 社会福祉主事資格認定通信課程 講師
2025年度(全5回)	全国社会福祉協議会 社会福祉主事資格認定通信課程 講師

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				

1 痴呆性高齢者が安心して けるケア環境づくりー実 践に役立つ環境評価と整 備手法ー	共著	2003年8月	彰国社	「第7章環境支援指針からみたユニットケア 施設」 (pp75-85)を執筆。 痴呆性高齢者のための環境支援指針PEAP日本 版3の次元と項目を、我が国の代表的なユ ニットケア施設に適用し、指針に沿ってその 具体的取組の事例を写真とともに紹介した。 編者：児玉桂子、足立啓、下垣光、潮谷有二 共著者：赤城徹也、足立啓、影山優子、他15 名
2 認知症ケア標準テキスト 改訂・認知症ケアの 実際Ⅱ：各論	共著	2007年9月	ワールドプランニング	「第6章施設・在宅における環境支援」 (pp247-272)を執筆 認知症高齢者のための環境支援の指針とし て、PEAP日本版3を紹介。また、実際の 施設におけるPEAPの適応事例を紹介して いる。 編者：日本認知症ケア学会 共著者：井出訓、今井幸充、影山優子、他11 名
3 介護サービス事業のリス クマネジメント	共著	2008年	第一法規	「マネジメントの実際」を執筆（加除式） 介護施設の現場で行われている、KYT活動 について紹介。現場での活用の可能性につ いて論じている。 編者：介護サービス事業マネジメント研究会
4 認知症ケア環境事典ー 症状・行動への環境対応 Q&A	共著	2009年5月	日本建築学会	「第3章症状・行動への環境対応Q&A」 3-7 (pp199-208)を執筆 編者：日本建築学会 共著者：森一彦、三浦研、影山優子、他21名
5 生活援助従業者研修テ キスト	共著	2018年12月	中央法規出版	「第1章介護の仕事とは」 (pp2-15)、「第 8章1節介護の基本的な考え方」 (pp204- 207)を執筆 編集：堀田力、是枝洋子 執筆者：五十嵐さゆり、岩瀬良子、影山優 子、他13名)
(学術論文)				
1 高齢者施設における職 員のための『痴呆に対応 した環境づくりプログラ ム』の開発研究	単著	2004年1月	日本社会事業大学大学院 社会福祉学研究所 研究 論叢170-193	施設環境づくりプログラムの考え方の中心と なっている、痴呆性高齢者への環境支援のた めの指針 (PEAP日本版) について、その文言 の適切さの検証を行なった。また、修正され たPEAP日本版3をユニットケア施設に適用さ せ、実践内容をPEAPの次元により分析した。 次に、PEAP日本版3を用いた施設環境づくり 実践研究を都内A特別養護老人ホームにおい て行い、職員が自ら環境評価を行うための手 法の一つとして、キャプション評価法を施設 職員、利用者、家族、ボランティア、第三者 など、複数の立場から実施し、環境課題の抽 出と環境づくりに向けての今後の課題の設定 を行なった。
2 痴呆性高齢者の施設環 境に関する研究	単著	2004年5月	日本社会事業大学社会事 業研究所、社会事業研究 第45号	高齢者施設に関与する20名を対象に、施設環 境についてラダーリング法を用いたインタ ビュー調査を行うことにより、評価者が施設 における様々な「環境」をどのような視点か らどのように評価しているのかということに ついて、その評価構造を明らかにした。
3 施設環境づくりの取り 組みが「環境」への着眼 点に与える影響ーキャプ ション評価法を用いた取 り組みー	単著	2004年10月	日本社会事業大学社会事 業研究所年報, 40:31-42	特別養護老人ホームにおける環境づくりの取 り組みの前後に実施した、キャプション評価 のキャプションの内容を前後で比較した。そ の結果、環境づくりの取り組みが物理的環境 だけでなく、職員の「環境」への意識も変え ることが示された。 共著者：影山優子、児玉桂子
4 痴呆性高齢者の施設環 境に関する研究ーラダー リング法による環境評価 語の抽出ー	単著	2005年1月	社会事業研究, 44号:112- 116	高齢者介護施設に関わる職員、利用者家族、 ボランティア、実習学生等に対し、施設に関 するラダーリング法を用いたインタビュー調 査を実施し、環境評価語を抽出した。

5 地域における施設環境づくり共同実践プロジェクトについて	共著	2006年1月	社会事業研究, 45号:183-187	大学と近隣にある高齢者ケア施設6施設が連携して施設環境作りプロジェクトに取り組んだ。本研究は、そのプロジェクトについて、実際の取り組み内容及び課題、期待される効果等について報告した。 共著者：影山優子、児玉桂子
6 高齢者ケア施設における環境の魅力的品質と当たり前品質—介護職員への意識調査に基づく分析（査読付き）	共著	2006年10月	老年社会科学, Vol. 28, No. 4:433-449	高齢者ケア施設で働く介護職員2100名に対し、「魅力的品質・当たり前品質」の考えを用いた全国調査を実施し、施設環境への意識について、品質の観点から評価分類を行った。 共著者：影山優子、児玉桂子、小島隆矢、古賀誉章、青木隆雄
7 学生の主観的ソーシャルスキルに関する研究～成人用ソーシャルスキル自己評定尺度を用いた検討	単著	2009年6月	西武文理大学研究紀要, vol. 14:65-72	学生のソーシャルスキルについて、相川らが作成した「成人用ソーシャルスキル自己評定尺度」の一部の項目を使用し、本学学生に対して質問紙調査を行い、両学科学生間の主観的ソーシャルスキルの相違を検討した。
8 介護老人福祉施設の介護職員の「介護観」に関する研究—経験年数、教育、資格による相違—（査読付き）	共著	2010年9月	介護福祉学, 17(2):164-175, 201	介護職員が介護の仕事に取り組む際に寄って立つ価値観や態度（介護観）の内容と構造、それらにおける経験年数、教育、資格との相違を分析した。 共同研究者 白石旬子、田口潤、影山優子、藤井賢一郎
9 個性が尊重されない「組織風土」における「キャリア・コミットメント」の高い介護職員の離職意向と「介護観」の関連（査読付き）	共著	2011年4月	老年社会科学, 33(1):34-46, 2011	個性が尊重されない「組織風土」における「キャリア・コミットメント」の高い介護職員の離職意向と「介護観」の関連を検証した。 共同研究者 白石旬子、藤井賢一郎、大塚武則、影山優子、今井幸充
10 介護現場におけるリーダーの特性に関する研究—「他の職員の目標」となるリーダーはどのような特性を持っているか—（査読付き）	共著	2011年11月	介護経営, 6(1):52-65, 2011	本研究は高齢者施設で働くリーダーの特性を明らかにすることを目的とし、1500か所の施設に対して郵送法により調査を実施した 共同研究者 影山優子、藤井賢一郎、白石旬子、田口潤
11 介護職員のワークモチベーションの内容および、ワークモチベーションの内容とキャリアコミットメントの関連：看護師との比較による介護職員の特徴（査読付き）	共著	2011年11月	介護経営 6(1):16-28, 2011	「ワークモチベーションの内容」および、「ワークモチベーションの内容」と「キャリア・コミットメント」の関連について、看護師との比較により介護職員の特徴を明らかにした。 共同研究者 白石旬子、藤井賢一郎、田口潤、影山優子
12 健康福祉マネジメント学科卒業生のキャリア形成に関する研究—学科卒業生に対するインタビュー調査の実施から（その1）—	単著	2017年12月	西武文理大学研究紀要第31号:51-69, 2017	健康福祉マネジメント学科卒業生（9名）に対するインタビュー調査の結果をまとめた。
(その他) [学位論文] 高齢者ケア施設における多面的施設環境評価尺度の開発（博士論文）		2007年3月	日本社会事業大学大学院	高齢者施設環境を多面的に把握できる尺度「多面的施設環境評価尺度」を開発したうえで、全国調査を実施、尺度としての有効性、妥当性等を確認した。その中で、実際に施設環境作りに取り組んだ6つの施設について、その前後で尺度を活用した。
[学会発表]（2007年以降筆頭のみ）				

1 多面的施設環境評価項目からみた高齢者ケア施設の環境的特徴	共同	2007年6月	日本老年社会学会 第49回大会 札幌教育文化会館	本研究は、筆者らが開発した、満足度評価項目（76項目）と期待度評価項目（40項目）からなる「多面的施設環境評価項目」（表1）を用いて、特別養護老人ホーム、老人保健施設、認知症高齢者グループホームの介護職員に対して郵送によるアンケート調査を実施することから、これらの施設における環境的特徴や職員の意識の傾向を明らかにした。 共同研究者：影山優子、児玉桂子、小島隆矢、他2名
2 利用者家族による高齢者ケア施設のサービス満足度に関する研究 Webによる全国調査の実施から	共同	2008年6月	日本老年社会学会 第50回大会 大阪府立大学	本研究は、ウェブ調査を用いて、入所系高齢者ケア施設の利用者家族を対象に、サービス選択の理由や、サービス内容についての満足度や要求を把握した。 共同研究者 影山優子、青木隆雄、小島隆矢、他2名
3 「その人らしさ」の共有をめざして（その2）「モノ的気づき」から「コト的気づき」への転換	共同	2009年10月	日本認知症ケア学会 第10回大会 東京国際フォーラム	本研究では、デイサービス職員の利用者に対する「気づき」について、①記述された語句・文章、②どのようなことに着目し、それについてどう考えているかといった視点の特徴、③月に1度のカンファレンスを継続することによる気づきの変化、この3点を明らかにすることを目的とした。また、あわせて、他事業所で行った同様の取り組みと比較した際の当園の特徴についても考察した。
4 「認知症」についてなにを学ぶか？介護職員のキャリアラダーに応じた学習内容に関する研究	共同	2010年10月	日本認知症ケア学会 第11回大会 神戸国際展示場	①各養成課程において定められている「認知症」に関する学習項目を整理しその異同を明らかにする。②整理した項目について、認知症ケアの専門識者に対してヒアリング等を実施し、キャリアラダーに応じて必要とされる学習内容を再整理する。 共同研究者 影山優子、藤井賢一郎、白石旬子、田口潤
5 介護現場におけるリーダーの特性に関する研究	共同	2011年6月	日本老年社会学会第53回大会 ハイアットリージェンシー東京	本研究は、リーダー的立場にある介護職員の仕事に対する行動特性や意見・態度について、全国の高齢者施設で働く介護職員を対象とした郵送による質問紙調査によって明らかにした。 共同研究者 影山優子、藤井賢一郎、白石旬子、田口潤
6 従来型特別養護老人ホームにおける職員の「気づき」の共有に関する研究	共同	2011年9月	日本認知症ケア学会 第12回大会 パシフィコ横浜	本研究では、ケア単位を細分化していない、いわゆる「従来型ケア」を行っている特別養護老人ホームにおける利用者に関する気づきの共有の現状と課題について事例的検討を行うことを目的とした 共同研究者 影山優子 白石旬子、井戸和宏、野崎康弘、藤井賢一郎
7 介護職員の仕事における成長経験に関する研究	単独	2012年1月	日本介護経営学会 第8回大会 明治大学	本研究では介護現場において20年程度のキャリアを持つ職員にインタビューを行い、これまでの仕事の中で自分自身が「成長したと感じる経験」（「一皮むけた経験」）について聞き取り、その内容と経験についての省察を整理することを目的とした。
8 認知症対応型共同生活介護事業所における現状と課題	共同	2015年5月	日本認知症ケア学会 第16回大会 札幌市教育文化会館	認知症対応型共同生活介護事業所（グループホーム）は介護保険制度の開始と前後して全国に広がり、現在その数は12,000事業所を超えている。一方で、そこにおけるケアのあり方や地域における役割等も入居者の心身機能の低下をはじめとした様々な要因により変化し続けている。本研究は、こうした背景のもとグループホームが多様化するなかで、全国規模の調査を実施し今後のあり方等を検討するための論点を整理することを目的とした。 共同研究者 影山優子 藤井賢一郎